

大会名称: 第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: Al Ahli Arena(アラブ首長国連邦・ドバイ)

試合区分: No. 113 男子 予選ラウンド・グループB コミッショナー: Romualdas BRAZAUSKAS (LTU)

期 日: 2014(H26)年8月9日(土)

主審: Jurgis LAURINAVICIUS (LTU)

開始時間: 14:15

副審: Ersan KARTAL (TUR), Ilya PUTENKO (RUS)

終了時間: 16:00

カナダ

(通算1勝1敗)

○
96

14 -1st- 19
32 -2nd- 14
28 -3rd- 7
22 -4th- 12
-OT1-
-OT2-
-OT3-

●
52

日本

(通算0勝2敗)

第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会 大会2日目。日本はカナダとの対戦。

第1ピリオド、#5林 #7武藤 #10牧 #14八村 #15平岩で試合に臨む。試合が開始されると、両チームとも激しいハーフコートマンツーマンでディフェンス。プレッシャーの強いカナダと、高さのあるインサイドを全員で守る日本。開始5分が経過しても両チーム得点が伸びず4-2とロースコアの展開。その後日本は、#10牧や#14八村が得点を重ねたりリバウンドを頑張り、19-14と日本がリードで終了。

第2ピリオド、日本のシュートファウルが重なり、カナダにフリースローを確実に決められる。さらに#7DESUROSIEERSに8連続得点を奪われ逆転を許す。日本はタイムアウトを取るもカナダの流れを断ち切れず、前半最大の14点差をつけられる。しかし、残り2分20秒日本がオールコートダブルチームを仕掛けると、相手のミスやオフェンスファウルを誘い、点差を7点まで詰める。しかしカナダはタイムアウトを取りリズムを取り戻すと再び点差を広げ、33-46で前半を終了する。

第3ピリオド、日本はミスが続き、なかなか得点できない。開始3分でようやく1ゴール決めるが、その間にカナダに点差を広げられてしまう。カナダは、ディフェンスリバウンドからのファーストブレイクなどで得点、一方日本はこのピリオド7得点にとどまり、40-74で終了する。

第4ピリオドに入ってもカナダの勢いは衰えず、日本はインサイドで得点できない分、外からのシュートを狙うが決められず追加得点が奪えない。日本は残り3分30秒、再びオールコートのプレスを仕掛けるが力及ばず、カナダに52-96で惜敗した。

次戦、8月11日(月) 14:15(現地時間)より、予選ラウンド(グループB)第3戦をフランスと対戦する。